

日銀神戸
支店長の
視点



別所昌樹氏

はじめまして。6月に神戸に着任しました。まだ1カ月余りですが、当地経済の力を実感し、自然、文化、歴史の豊かさに魅了されています。

はじめまして、といえはもう一つ。7月3日に新しい日本銀行券の発行が始まりました。手にとつてご覧になった方もおられるかと思います。

お金は、どなたもが安心して、便利に使えることが求められます。従来以上に安心して使えるよう、新しい銀行券には偽造を防ぐさまざまな工夫があります。例えば、肖像が3次元に見えて回転するホログラムは銀行券では世界初採用です。インキを高く盛り上げる印刷、すかし、すき入れ、傾けると浮かび上がる模様、特殊なインキ、マイクロ文字などの技術も使っています。

二つの「はじめまして」

す。

誰にとつても分かりやすいユニバーサルデザインも特徴です。指で触って判別しやすいようインキを高く盛り上げた識別マークの位置を券種ごとに変えたほか、ホログラムやすき入れの形・配置も券種ごとに変えました。額面表示は、外国の方も読めるアラビア数字が大きくなりました。

ところで、昔の兵庫でも、お金の偽造を防ぐ工夫は行われていました。但馬国豊岡では藩札に漆で朱印を押し、偽造を防いでいました。泥で色づけされることで偽造が難しかった名塩（現在の西宮市）の和紙は、兵庫以外でも多くの藩の藩札に使われました。

誰もが便利に使えるようにという点でも例えば、今回1万円札に登場した渋沢栄一が播磨国一橋領今市（現在の高砂市）で発行した木綿預手形は、各額面で色と大きさを変えていました。このような兵庫の先人の知恵を思いつつ、新しい銀行券をどうかよろしくお願いいたします。